



〔参考〕 川端玉章《桜雉子図》

40 橋本雅邦《松樹鶴図》

明治二十七年（二八九四）  
絹本着色

本紙二八・二 × 一七三・五

明治二十七年の明治天皇大婚二十五年奉祝品として、文部省職員一同より川端玉章《桜雉子図》とともに献上された作品。藤のからんだ堂々たる大樹の松の枝に、つがいのタンチョウの趾は、後趾が短く枝をつかむことができない。そのため、実際には本図のように樹上にとまることはないのであるが、齡千年とも言われるツルと常緑の松はいずれも長寿を示すことから、松にとまるツルは古くから吉祥画の典型的な画題としてよく描かれてきた。特につがいのツルの絵は、夫婦がいつまでも仲睦まじく年を重ねていく「偕老」を意味するものとして好まれた。本図にも、御成婚から二十五年が過ぎた明治天皇と昭憲皇太后がさらに末永くお二人で健やかに過ごされるようにとの思いが込められている。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

鳥の楽園 — 多彩、多様な美の表現

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 68

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十七年三月二十一日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shozokan